

**今週のビルマのニュース 2011年4月1日 (1111号)**  
**新政府が発足 新しい国軍最高司令官は 地震で3,000人が家をなくす**

**【ビルマ国内】**

- ・ 新内閣が3月30日に発足し、タンシュエ上級大将が議長だった国家平和発展評議会（SPDC）は正式に解散した。テインセイン大統領以下新閣僚の大半が軍出身者で、議会も軍人と翼賛政党議員が圧倒的多数を占めるため、実質的には国軍支配が続くと見られる。今後は2008年憲法に規定のない国家最高評議会（SSC）が発足し、これを拠点にタンシュエ上級大将が「院政を敷く」との情報も。（3月30日 DVB ほか）
- ・ 国軍最高司令官にはタンシュエ上級大将に代わりミンアウンフライン大将が就任。同大将は国軍士官学校（DSA）19期生。2002年から三角地域軍管区司令官、2008年から国防省第二特別作戦局長となり、2009年にコーカン軍（MNDAA）に対する攻撃を指揮した。（3月30日 DVB）
- ・ 新体制下では2008年憲法の規定に従い、一部の雑誌に対する検閲手続きが緩和される。スポーツや超自然現象などを扱う雑誌は原稿を出版前に検閲局に提出する必要がなくなる。政治やビジネスなどを扱う雑誌についてはこれまで通り事前提出が必要。国内の編集者によれば、事前提出をしなくても政府の方針に反する記事を出版すれば罰せられることには変わりはないため、自己検閲が求められることになる。（3月29日 ミジマ、28日 DVB）
- ・ 国連人道問題調整事務所（OCHA）などによれば、3月24日にシャン州で起きた地震により3,000人以上が家を失った。現地の情報筋は少なくとも150人が死亡したとしている。（3月31日 イラワディ）

**【国際関係】**

- ・ ビルマでの新政府発足について日本政府は「同国の国会における議論や更なる国民和解に向けた政府の前向きな努力を通じ、同国がより一層開かれた民主的な国家となることを期待するとともに、我が国を始め国際社会との関係が一層強化されることを希望する」という外務大臣談話を発表。（31日外務省）

**【政府開発援助（ODA）】**

- ・ 新たな発表はなし。

**【注目アイテム】**

- ・ ビルマ国内で活動する全ビルマ僧侶連盟、全ビルマ学生連盟、88世代学生グループの三団体が「日本政府及び日本国民へのお見舞い」を発表（3月30日、日本語版あり）。「ビルマでは、2008年5月、サイクロン・ナルギスの被害に遭ったとき、軍事政権は、国民の困難を無視し、自ら作り上げた2008年憲法を強制的に成立させることを優先しました。それに比べれば、責任を果たしながら自国民の命と生活を守ろうとしている日本政府の姿勢には敬意を表するべきであると思います」などと。希望者に送付可能。
- ・ タンシュエ上級大将の評伝著者ベネディクト・ロジャーズ氏のインタビュー（3月30日ミジマ）。同評伝を書いたことが原因となり、3月23日にビルマから退去処分となった。  
<http://www.mizzima.com/edop/interview/5089-they-all-have-a-common-view-that-nothing-has-changed.html>  
\* 同評伝の日本語版「ビルマの独裁者タンシュエ（仮題）」は白水社から出版予定。

**【イベント情報】（ [ ] 内は主催者。共催等は省略）**

- ・ 9日に福島で予定されていた映画上映・講演会は中止。
- ・ [ビルマ民主化ネットワーク日本（NDB）] 東北・関東大震災及び津波被害者への祈りの会（新宿・落合第一地域センター3階、10日13時～17時）

もっと詳しい情報・お問い合わせは  
ビルマ情報ネットワーク <http://www.burmainfo.org>